D01019600B

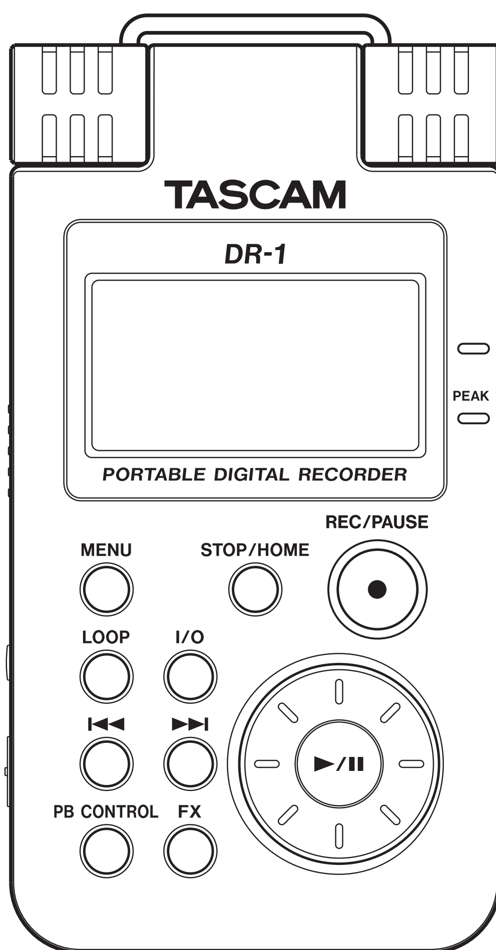
TASCAM

TEAC Professional Division

DR-1

Portable Digital Recorder

取扱説明書



目次

目次

第 1 章　はじめに

このたびは、 TASCAM DR-1 をお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、十分に機能を発揮させ末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

主な機能

- SD カードを記録媒体とするポータブルレコーダー。
- 内蔵マイクを使った録音のほかに、外部マイクあるいは外部オーディオ機器（CD プレーヤーなど）のライン出力を接続して録音することが可能。
- 録音オーディオファイル形式は MP3（32kbps ～ 320kbps、44.1kHz または 48kHz）、WAV（16 ビットまたは 24 ビット、44.1kHz または 48kHz）から選択可能
- オーディオを再生しながら入力信号をミックスして録音することが可能（オーバーダビング録音機能）。
- 特殊再生機能（音程を変えないスロースピード再生、ボーカルやソロ楽器を減衰して再生など）を装備。
- 入力信号に内蔵エフェクターを掛けることが可能。
- 本機と USB 接続しているパソコン上に保存されているオーディオファイルを本機の SD カードに転送（コピー）可能。

付属品

- ソフトケース　1
- SD カード（取扱説明書を収録）　1
- BP-L2(専用リチウムイオンバッテリー)　1
  (保証書・取扱説明書を含む)
- USB ケーブル　1
- クイックスタートガイド　1
- 保証書　1

付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合、お買い上げの販売店までご連絡下さい。

充電池のリサイクル

本機にはリチウムイオンバッテリーを使用しています。不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

■ご不明な場合は、弊社のタスカム営業技術までお問い合わせください。



第2章　準備

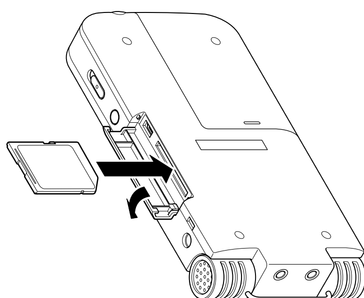
SDカードについて

本機ではSDカードを使って記録や再生を行ないますので、ご使用前にカードを本機にセットする必要があります。使用できるカードは、64MB～2GBのSDカード、および4GB～32GBのSDHCカードです。

動作確認済みメディアに関しては弊社ホームページ(http://www.tascam.jp/)をご確認ください。

カードをセットする

本機の左サイドパネルにSDカードスロットとUSBコネクタの蓋があります。

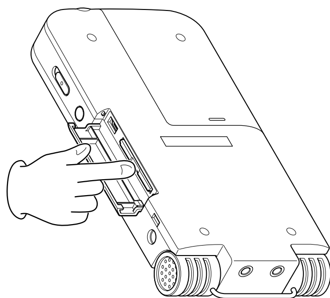


蓋を矢印の方向に押し下げてから開きます。

SDカードスロットに付属のSDカードを差し込み、カチッと手応えがあるまで押します。

SDカードを取り外すには：

差し込まれているSDカードを押します。



ご注意

録音中や再生中、およびパソコンとUSB接続中、本機からSDカードを取り外さないでください。

新しいカードをセットしたとき

新しいカードをセットすると、以下のポップアップ画面が表示されます。

Format Error
Format Card
Are you sure ?

本機で使える状態にするには、►/II キーを押してフォーマットを行なってください。

フォーマットが終わるとホーム画面が表示されます。

その他のケース

- 本機以外の機器でフォーマットしたSDカードをセットした場合も、上記の画面（**FORMAT ERROR**）が表示されますので、フォーマットを行なってください。
- パソコンからの操作で誤ってSDカード上のシステムファイルなどを削除してしまった場合、以下のポップアップ画面が表示されます。

File Not Found
Make Sys File
Are you sure ?

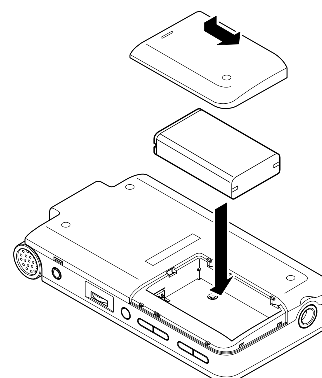
この場合も、►/II キーを押してフォーマットを行なってください。

電源について

本機は専用リチウムイオンバッテリー（または別売のACアダプター［PS-P520］）で駆動することができます。バッテリーは、USB接続したパソコン（または別売のACアダプター）を使って充電することができます。お買い上げ時、付属のバッテリーは十分に充電されていません。ご使用の際はあらかじめバッテリーを充電しておくか、あるいはACアダプターを接続してください。

バッテリーをセットする

本機の裏面にあるバッテリーケースの蓋をスライドして取り外し、付属の専用バッテリーをセットします。



バッテリーを充電する

・パソコンを使って充電する：

本機の左サイドパネルの蓋を開き、付属のUSBケーブルを使って、本機のUSBポートとパソコンをUSB接続します。

パソコンと本機は直接接続してください。USBハブを経由した場合の動作は保証できません。

USB接続中は本機の電源を入れなくても充電が行なわれます。

充電時間はおよそ6時間です（本機の電源オフで充電時）。

パソコンから充電中は自動的に本機がUSB接続モードになります（→ 14ページ「パソコンを接続する」）。

・別売のACアダプターを使って充電する：

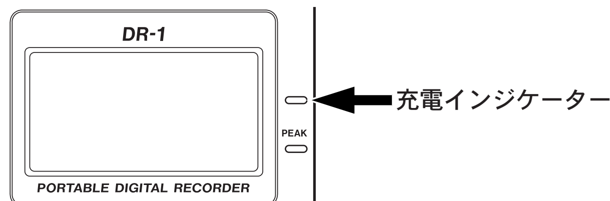
別売のACアダプターを本機のDC IN 5V端子に接続した状態で、充電が行なわれます。

充電時間はおよそ3時間です（充電時の本機の電源オン／オフ状況にかかわらず）。

ACアダプター接続中は、充電しながら本機を使用することができます。

メモ

充電中はディスプレイの右にある充電インジケーターがオレンジ色に点灯します。フル充電されると消灯します。



バッテリーを交換する

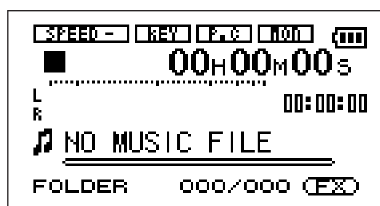
本機付属のバッテリーと同じバッテリーが別売されています（BP-L2)。電源のないところで長時間のレコーディングを行なうときなどは、予備のバッテリーを用意しておくとよいでしょう。

バッテリーを交換するには、ボトムパネルのバッテリーケースの蓋をスライドして取り外します。

電源を入れる

本機のPOWERキーを押し続け、画面に **"TASCAM DR-1"** と表示されたら離します。

本機が起動してホーム画面が表示されます。



電源を切るには：

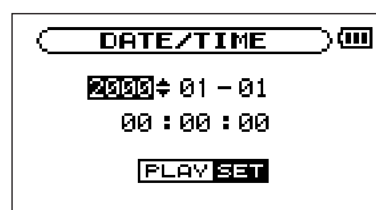
POWERキーを押し続け、画面に **"PORTABLE DIGITAL RECORDER"** と表示されたら離します。

日時を設定する

本機内蔵のクロックの日時を設定します。オーディオファイル作成時、ファイルデータとして日時が記録されます。

1. MENUキーを押してメニューリストを表示します。
2. ホイールを使って **DATE/TIME** を反転し、►/II キーを押します。

   DATE/TIME 画面が表示されます。



   画面表示中はクロックが停止しています。

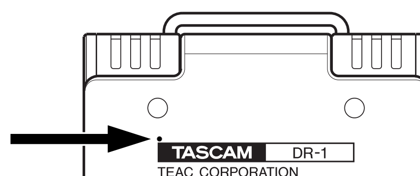
3. ⏮ ／ ⏭ キーを使ってカーソル（反転表示部）を移動し、ホイールを使って値を設定します。
4. 設定後、►/II キーを押すと、設定値からクロックが作動を始めます。

   ディスプレイはメニューリスト画面に戻ります。

本機をリセットするには

本機のバックパネルにリセット用ホールがあります。

本機の動作がおかしくなったとき、クリップの先端など細長い棒などをこの穴に差し込んで、内部にあるボタンを押してください。電源がオフになり、本機のシステムがリセットされます。

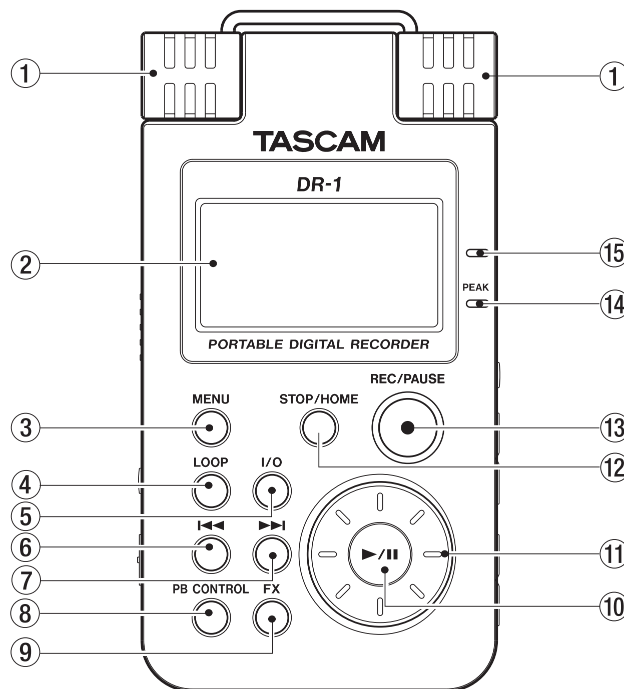


ご注意

正常に動作しているときはリセットボタンを押さないでください。

第３章　各部の名称と機能

トップパネル



① 内蔵ステレオマイク

エレクトレットコンデンサータイプのステレオマイクです。このマイクを入力ソースにするには、入力設定画面で**INT/MIC1**を選択します。なお、リアパネルのMIC1 IN端子にマイクを接続すると、内蔵マイクが無効になります。

② ディスプレイ

ホーム画面を表示する他、録音画面や各種設定画面などを表示します。（→ 10ページ「画面の概要」）

③ MENUキー

ホーム画面表示中にこのキーを押すとメニューリスト（**MENU**画面）が表示されます。

各種設定画面を表示中にこのキーを押したときも、**MENU**画面に戻ります。

MENU画面表示中にこのキーを押すとホーム画面に戻ります。

④ LOOPキー

希望の区間を繰り返し再生するループ再生モードのオン／オフを行ないます。（→ 28ページ「ループ再生する」）

⑤ I/O キー

希望の区間をループ再生させるときの「始点」と「終点」を設定します。「始点」と「終点」が設定されているときにこのキーを押すと、「始点」と「終点」がクリアされます。（→ 28ページ「ループ再生する」）

⑥ ⏮ キー

再生中あるいは途中で停止しているときにこのキーを押すと、曲の先頭に戻ります。

ファイルの先頭で停止しているときに押すと、手前のファイルにスキップします。

押し続けると早戻しサーチを行ないます。

設定画面表示中、画面内のカーソルを左に移動します。

ブラウザ画面では階層を戻ります。

⑦ ⏭ キー

再生中や停止中にこのキーを押すと、次のファイルにスキップします。

押し続けると早送りサーチを行ないます。

設定画面表示中、画面内のカーソルを右に移動します。

ブラウザ画面では階層を進みます。

メモ

VBRで作成されたMP3ファイルは、早送り／早戻しサーチをすると曲の経過時間と再生音がずれたり、曲の最後の部分を繰り返して再生する場合がありますが、一旦再生を止めれば正常な状態に復帰します。

⑧ PB CONTROLキー

このキーを長押しすると、再生コントロール設定(**PB CONTROL**)画面が表示されます。**PB CONTROL**画面表示中にこのキーを長押しすると、ホーム画面に戻ります。（→ 27ページ「特殊な再生（再生コントロール機能)」）

このキーを短く押すと、**PB CONTROL**画面のスピードコントロール（**VSA**および**SPEED**項目）設定のオン／オフが切り換わります。オンのとき、ホーム画面上の**SPEED**アイコンが反転します。

⑨ FXキー

このキーを短く押すと、エフェクターのオン／オフが切り換わります。

このキーを長押しするとエフェクト設定画面が表示されます。エフェクト設定画面表示中にこのキーを長押しするとホーム画面に戻ります。（ → 29ページ「内蔵エフェクターを使う」）

⑩ ►/II キー

ホーム画面表示中、停止中に押すと、再生を始めます。再生中に押すと、その位置で停止します。

設定画面での操作時、選択を確定したり、階層を進んだり、確認メッセージに対して「**YES**」と答えるときに使います（ENTERキー機能）。

メトロノーム画面表示中、メトロノームのスタート／ストップを行ないます。

⑪ ホイール

設定画面での操作時、項目の選択したり設定値の変更するときに使います。

ホーム画面表示時、ホイールを使ってファイルの再生位置を移動することができます。

⑫ STOP/HOMEキー

録音や再生を停止するときや、録音待機を解除するときに使います。

設定画面表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。

また設定画面の操作では、確認メッセージに対して「**NO**」と答えるときに使います。

⑬ REC/PAUSEキー

停止中に押すと、録音待機になり、キーが点滅します。また、**INPUT SETTING**画面の**MONITOR**項目が**ON**の場合、オーバーダビング オン/オフのポップアップが表示されます。（ → 17ページ「録音する」）

録音待機中に押すと、録音が始まり、キーが点灯に変わります。

録音中に押すと、録音一時停止になります。

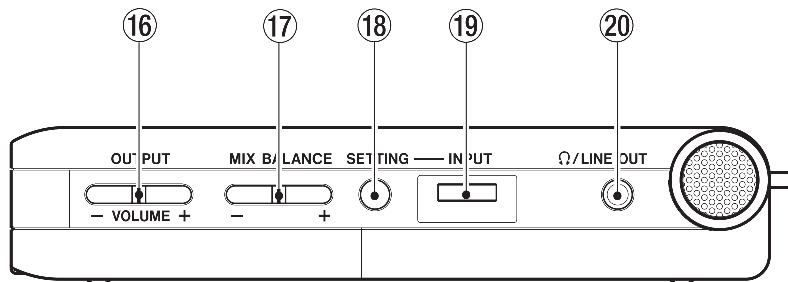
⑭ PEAKインジケーター

選択中の入力信号がレベルオーバーすると点灯します。

⑮ 充電インジケーター

本機にセットしている専用リチウムイオンバッテリーを充電しているとき、オレンジ色に点灯します。フル充電されると消灯します。

右サイドパネル



⑯ OUTPUT VOLUME（+、−）キー

Ω/LINE OUT端子から出力される信号のレベルを調整します。

調整中、ボリューム位置がディスプレイに表示されます。

⑰ MIX BALANCE（+、−）キー

INPUT SETTING画面の**MONITOR**項目をオンに設定したとき、入力信号にミックスする再生信号の音量を調節します。操作中、再生音量が表示されます。音量を上げるときは+キー、下げるときは−キーを使います。

MONITOR項目の設定がオフのとき、キーを押すと、**"MONITOR OFF"** と表示され、設定を行うことができません。

⑱ SETTINGキー

このキーを押すと入力設定（**INPUT SETTING**）画面が表示されます。この画面で、入力の選択、INT/MIC1 INの設定、入力信号の常時モニターのオン／オフ行ないます。

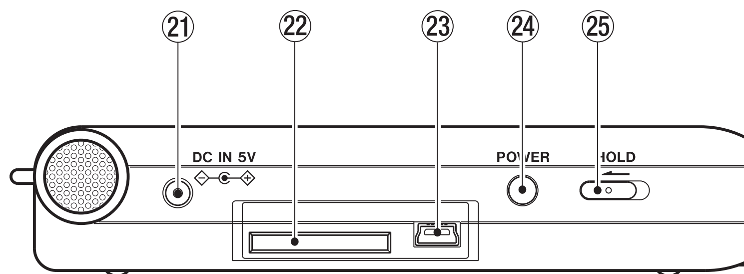
⑲ INPUTボリューム

内蔵マイク、MIC1 IN端子、MIC2 IN端子からの入力信号の入力レベルを調節します。LINE IN端子からの入力信号は調節できません。

⑳ Ω/LINE OUT端子

ヘッドホンまたはアンプなどのライン入力端子に接続します。**INPUT SETTING**画面の**MONITOR**項目の設定とレコーダーの動作状態に応じて、入力信号、再生信号、または入力信号と再生信号のミックス信号が出力されます。

左サイドパネル



㉑ DC IN 5V端子

ACアダプター（別売りのTASCAM PS-P520）を接続します。

㉒ SDカードスロット

SDカードをセットします。（ → ４ページ「SDカードについて」）

㉓ USBポート

付属のUSBケーブルを使ってパソコンと接続するためのUSBポートです。（ → 14ページ「パソコンを接続する」）

ご注意

パソコンとの接続はUSBハブを経由せずに、直接接続してください。

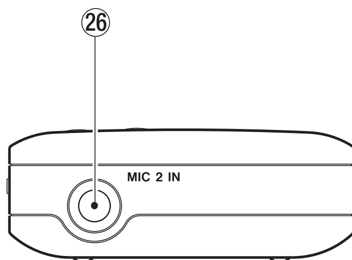
㉔ POWERキー

長押しすることにより、電源のオン／オフを行ないます。

㉕ HOLDスイッチ

左（ON）側にセットするとホールド機能が働きます。ホールド中はすべてのキー操作を受付けません。

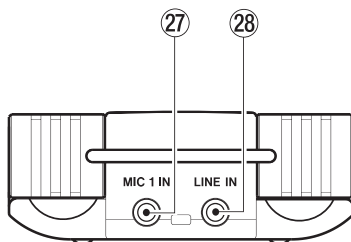
フロントパネル



㉖ MIC2 IN端子

マイクを接続するためのモノラル標準ジャックです。

リアパネル



㉗ MIC1 IN端子

ステレオミニジャックのマイク入力端子です。

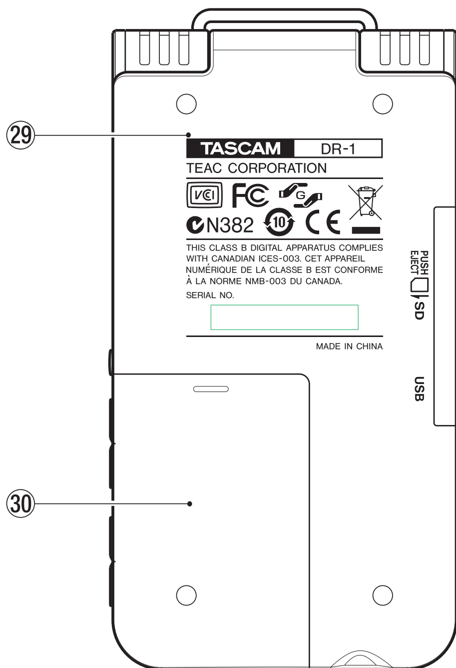
プラグインパワーに対応しています。

設定は**INPUT SETTING**画面を使って行ないます。

㉘ LINE IN端子

ステレオミニジャックのライン入力端子です。規定入力レベルは－ 10dBV固定です。

ボトムパネル



㉙ リセット用ホール

本機の動作がおかしくなったとき、クリップなどをこの穴に差し込んで、内部にあるシステムリセットボタンを押します。ボタンを押すと電源がオフになります。

ご注意

通常の動作中はシステムリセットボタンを押さないでください。

㉚ バッテリーケース

専用リチウムイオンバッテリーを収納します。

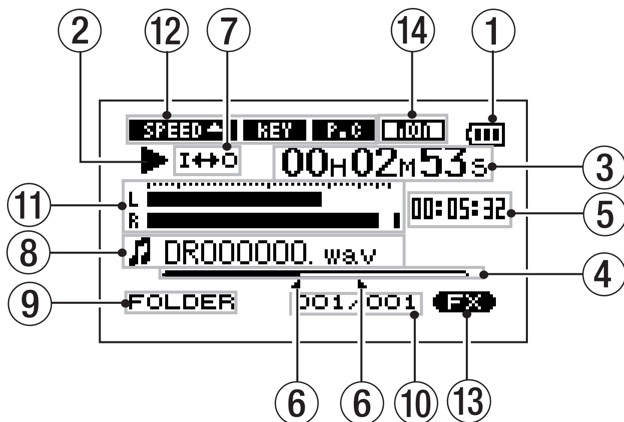
第４章　画面の概要

通常の再生時や停止時はディスプレイにホーム画面が表示されます。各種設定時はそれぞれの設定画面が表示されます。また録音中や録音待機中は録音画面が表示されます。

ホーム画面

以下にホーム画面の表示項目を説明します。

各設定画面や録音画面についてはそれぞれの説明個所をご覧ください。



① 電源

リチウムイオン電池駆動時は電池アイコンを表示します。電池残量が３目盛り（充電が必要になったときの点滅表示を含めて計４段階）で表示されます。

② レコーダー動作

レコーダーの動作状態をアイコン表示します。

► ：再生中

❚❚：ファイルの途中で停止中

■：ファイルの先頭で停止中

►► ：早送り中

◄◄ ：早戻し中

►►❙ ：次のファイルの先頭にスキップ

❙◄◄ ：現在または手前のファイルの先頭にスキップ

③ 経過時間

再生中のファイルの経過時間（時：分：秒）を表示します。

④ 再生位置表示バー

現在の再生位置をバー表示します。再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑤ 残量時間

再生中のファイルの残量時間（時：分：秒）を表示します。

⑥ ループの始点／終点設定状況

ループ再生の始点／終点の設定状況を表示します。

始点を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に "◢" が表示されます。

終点を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に "◣" が表示されます。

⑦ ループ／リピート設定状態

状況に応じて以下のアイコンを表示します。

SINGLE ：シングル再生中

1 ：１曲リピート中

ALL ：プレイエリア内の全曲中

I↔O ：ループリピート中

⑧ ファイル情報

再生中のファイルのタグ情報またはファイル名を表示します。

ID3タグ情報を持つMP3ファイルの場合、ID3タグ情報が優先して表示されます。

ID3タグ情報を持たないMP3ファイル、およびWAVファイルの場合、ファイル名が表示されます。

メ モ

ID3タグ情報とは、MP3ファイルに保存可能なタイトルやアーティスト名の情報です。

⑨ 再生対象エリア

現在の再生対象エリアを表示します。

ALL ：MUSICフォルダ内の全ファイル

FOLDER ：MUSICフォルダ内のサブフォルダ内のファイル

P.LIST ：プレイリストに登録されたファイル

⑩ 再生ファイル番号／総ファイル数

再生対象エリアの総ファイル数と現在のファイル番号を表示します。

⑪ レベルメーター

選択中の入力からの信号と再生ファイルの信号をMIXしたレベルを表示します。入力オーバーになると、一番右のドットがしばらく点灯します。

⑫ 再生コントロール機能の設定状態

各再生コントロール機能（スピードコントロール、キーチェンジ、パートキャンセル）が現在有効かどうかを表示します。有効なとき、反転表示になります。（ → 27ページ「特殊な再生（再生コントロール機能」）

⑬ エフェクターのオン／オフ状態

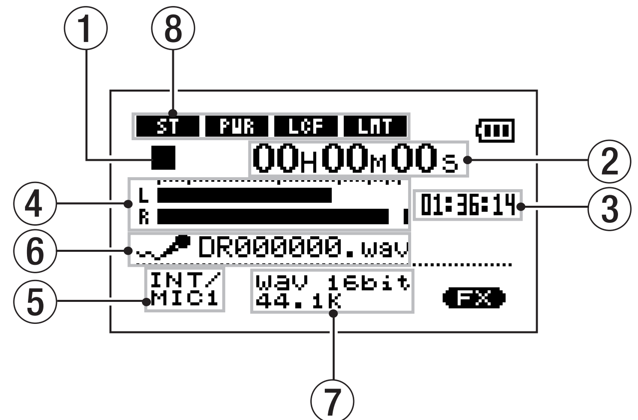
エフェクトのオン／オフ状態を表示します。エフェクト機能をオンにしたとき反転表示になります。

⑭ 入力モニターの設定状態

INPUT SETTING 画面のモニターのオン/オフを表示します。モニターをオンにしたとき反転表示となります。

録音画面

REC/PAUSEキーを押して録音待機にしたとき、および再度REC/PAUSEキーを押して録音を実行しているときに表示されます。



電源表示、およびエフェクターのオン／オフ表示は、ホーム画面と同じです。これらの他に以下の表示があります。

① レコーダー動作

●：録音中

❚❚：録音一時停止中

■：録音待機中

② 録音経過時間

録音ファイルの経過時間（時：分：秒）を表示します。

録音待機時は録音可能な時間の表示となります。

③ 録音残時間

録音の残時間（時：分：秒）を表示します。

④ 録音レベルメーター

選択中の入力から入力信号のレベルをL、Rチャンネル別々に表示します。

⑤ 入力選択

入力ソースを表示します。

⑥ ファイル名

録音するファイルに自動的に付けられるファイル名を表示します。

⑦ 録音モード

録音ファイルの形式／サンプリング周波数を表示します。オーバーダビング中は、再生ファイルの情報（ファイル名、またはMP3のID3TAG）を表示します。

⑧ INT/MIC1の設定状態

内蔵マイク/MIC1入力に関する設定（ステレオ録音、プラグインパワー、ローカットフィルターおよびレベルコントロール）の状態を表示します。

設定画面

本機ではディスプレイに表示される各種設定画面を使って、さまざまな設定や操作、あるいは情報表示を行ないます。

メモ

各種設定画面では、設定の他に、機能実行、情報表示なども行ないますが、本書では「設定画面」と呼びます。

設定画面の構成

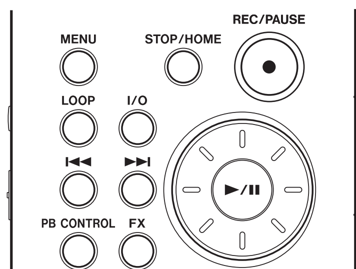
各設定画面には、メニューリスト画面（**MENU** 画面）を呼び出し、この画面からアクセスするものと、専用キーから直接アクセスするものがあります。

以下に設定画面構成をまとめます。

画面	概要	呼び出し方法
INFORMATION	ファイル情報表示、環境設定情報、システム情報表示	MENU キー → MENU 画面
BROWSE	MUSIC フォルダ内部の音楽ファイル／フォルダ表示、 ファイルの再生／削除／プレイリスト登録、フォルダの作成／選択	MENU キー → MENU 画面
PLAY LIST	プレイリストの編集（曲の削除、移動）	MENU キー → MENU 画面
PLAY MODE	再生モードの設定、シングル、リピートモードの設定	MENU キー → MENU 画面
REC SETTING	録音に関する設定（ファイル形式、Fs、最大ファイルサイズ）	MENU キー → MENU 画面
METRONOME	メトロノーム機能の設定、実行	MENU キー → MENU 画面
TUNER	チューナー機能、オシレーター機能	MENU キー → MENU 画面
SETUP	各種環境設定、イニシャライズ、フォーマット	MENU キー → MENU 画面
DATE/TIME	内蔵クロックの日時設定	MENU キー → MENU 画面
INPUT SETTING	入力ソースの選択、入力モニターの設定、 内蔵マイク/MIC1 IN に関する設定	SETTING キー
EFFECT	エフェクターに関する設定	FX キーの長押し
PLAYBACK CONTROL	再生コントロール機能の設定	PB CONTROL キーの長押し

操作の基本

各種設定画面の操作には MENU キー、►/❚❚ キー、ホイールおよび ⏮ / ⏭ キーを主に使います。そのほかに、STOP/HOME キーを使う場合もあります。それぞれ、以下の働きをします。



MENU キー：

このキーを押すと、メニューリスト画面（**MENU** 画面）が表示されます（**MENU** 画面表示中および録音画面表示中を除きます）。

MENU 画面表示中にこのキーを押すと、ホーム画面に戻ります。録音画面表示中はこのキーは無効です。

ホイール：

項目を選択したり、値を変更するときに使います。

►/❚❚ キー：

項目選択を確定したり、確認メッセージに対して「**YES**」と答えるときに押します（いわゆる「ENTER キー」としての機能）。

メトロノーム画面ではメトロノームのスタート／ストップを行ないます。

⏮ キー：

設定画面表示中、画面内のカーソル（反転表示部）を左に移動します。設定項目の値の設定を行なった後、項目選択に戻すときなどに使います。

⏭ キー：

設定画面表示中、画面内のカーソル（反転表示部）を右に移動します。多くの場合、►/❚❚ キーでも操作できます。

STOP/HOMEキー：

設定画面表示中、ホーム画面に戻るときに押します。ただし確認メッセージ表示中は「**NO**」と答えるときに押します。

メ モ

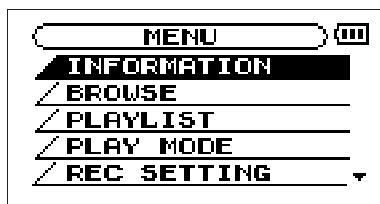
再生中も、メニュー操作を行なうことができます。

実際の操作例

例として、**SETUP** メニューの **CUE/REV SPEED** 項目を使って、「早送り／早戻しのスピード」を変更してみましょう。

1. ホーム画面表示中に MENU キーを押します。

MENU 画面が表示されます。



メ モ

上図のように画面右下部の▼表示は、現在の画面表示より下にまだ表示内容があることを示しています。

現在の画面表示より上にまだ表示内容がある場合は▲が表示されます。

2. ホイールを回して **SETUP** を反転表示し、►/❚❚ キーを押します。

SETUP 画面が表示されます。

3. ホイールを回して **CUE/REV SPEED** 項目を反転表示し、►/❚❚ キーを押します。

現在の設定値（初期設定では **"X8"** ）が反転表示になります。

メ モ

►/❚❚ キーの代わりに ►►❙ キーを使うこともできます。

4. ホイールを回して希望の設定にします。

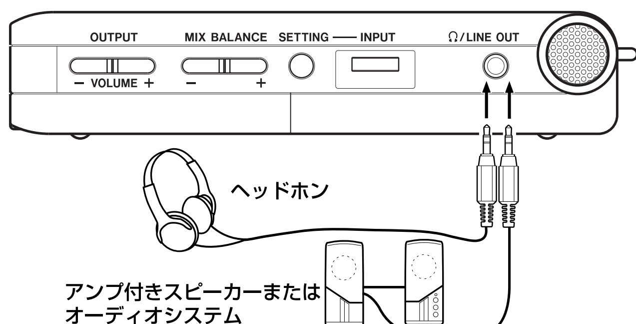
そのまま設定が確定します。►/❚❚ キーを押す必要はありません。

メ モ

設定値の右側に▲が表示されているとき、ホイールを右に回すと別の値に変わり、▼が表示されているとき、ホイールを左に回すと別の値に変わります。

5. STOP/HOME キーを押すと、ホーム画面に戻ります。

モニターを接続する

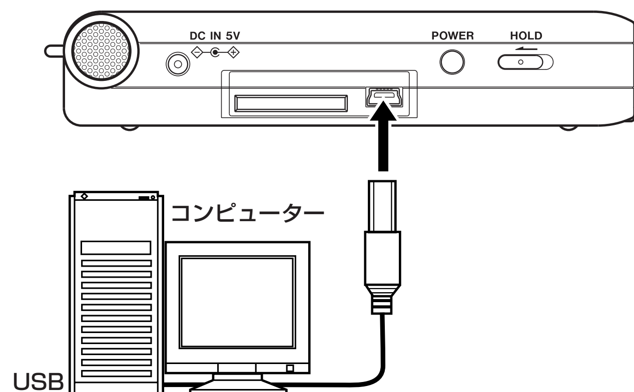


本機の /LINE OUT 端子にヘッドホンまたはモニターシステム（アンプ内蔵スピーカー、アンプ／スピーカーシステムなど）を接続します。

パソコンを接続する

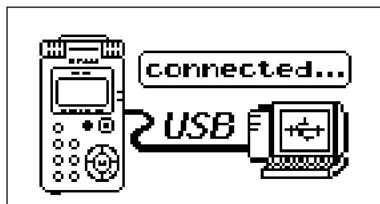
本機とパソコンを接続することにより、パソコン上の音楽ファイル（WAV または MP3 形式）を本機に転送（コピー）したり、パソコンから本機のファイルの削除やフォルダ操作を行なうことができます。

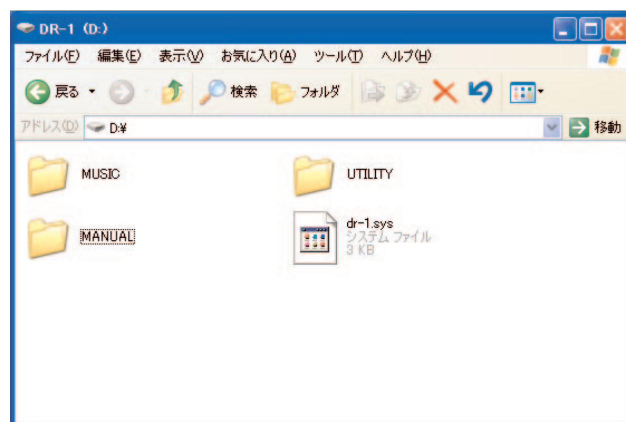
パソコンと接続するには、本機の左サイドパネルの蓋を開き、付属の USB ケーブルを使って、本機の USB ポートとパソコンの USB ポートを接続します。



接続すると本機の画面に、**"USB connected.."** が表示されます。

パソコンの画面に、本機が **"DR-1"** というボリュームラベルの外部ドライブとして表示されます。





"DR-1" ドライブの中には、MUSIC フォルダ、UTILITY フォルダおよび取扱説明書の PDF データを収録した MANUAL フォルダがあります。

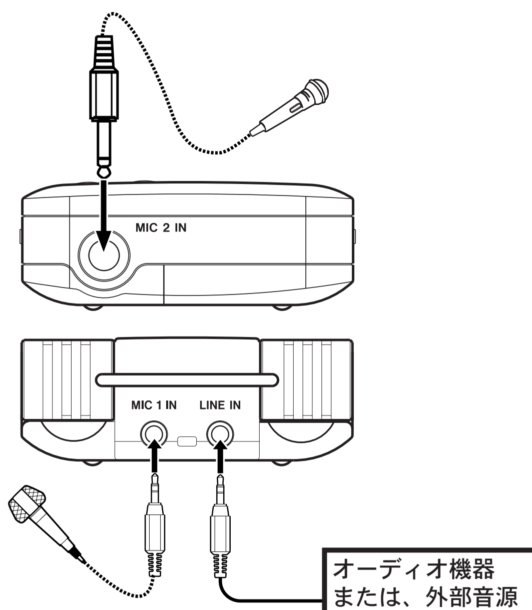
接続を外す

パソコンと本機の接続を外すときは、パソコンから本機を正しい手順で切り離してから、USB ケーブルを外します。本機が自動的に再起動します。

パソコン側での接続解除方法については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

外部のマイクやオーディオ機器を接続する

本機にはステレオマイクが内蔵されていますので、これを使って録音や歌の練習などを行なうことができますが、外部の音源を入力することもできます。外部音源はライン入力端子または２種類のマイク入力端子から入力します。これらの端子を使った接続について説明します。（接続に伴う設定や入力レベル設定については「録音する」（17ページ）をご覧ください。



第５章　接続する

MIC1 IN端子に接続する

リアパネルのMIC1 IN端子（ステレオミニジャック）にワンポイントステレオのエレクトレットコンデンサーマイクなどを接続することができます。**INPUT SETTING**画面を使って、オートゲインやローカットフィルターなどの設定を行ないます。（ → 17ページ「入力ソースを選択する」）

MIC2 IN端子に接続する

フロントパネルのMIC2 IN端子（モノラル標準ジャック）にダイナミックマイクなどを接続することができます。

メモ

この端子の入力信号に対しては、オートゲイン機能やフィルター機能を使うことができません。

LINE IN端子に接続する

リアパネルのLINE IN端子（ステレオミニジャック）にオーディオ機器のライン出力などを接続することができます。

メモ

LINE IN端子からの入力のレベルは調節することができません。

第６章　パソコンから曲を取り込む

本機では、練習やフレーズコピーなどを行なう素材として、あるいは後述するオーバーダビング録音のときの再生素材として、パソコンからオーディオファイルをUSB経由で転送することができます。

なお本機で扱うことができるオーディオファイル形式は、MP3（32kbps～320kbps、44.1kHz／48kHz）およびWAV（44.1／48kHz、16／24ビット）です。

メモ

DR-1とパソコンをUSB接続する代わりに、DR-1からSDカードを取り外して直接（あるいはカードアダプターを使って）パソコンにセットしても、同じ操作ができます。

パソコン上にオーディオファイルを準備する

パソコンの機能／ソフトウェアアプリケーションを使って、CDの楽曲などをパソコンに取り込みます。

パソコンに取り込むときに、最終的にDR-1に取り込むファイルの形式（上記のMP3、WAV）に合わせて、ファイル形式を選んでください。

パソコンからオーディオファイルを取り込む

1. 本機とパソコンを接続します。（ → 14ページ「パソコンを接続する」）
2. パソコン上の **"DR-1"**ドライブをクリックして開きます。

   UTILITYフォルダ、MUSICフォルダが表示されます。
3. パソコン上の希望のオーディオファイルをMUSICフォルダにドラッグ＆ドロップします。

   オーディオファイルが本機にコピーされます。

ヒント

パソコン上の操作で、MUSICフォルダ内を管理することができます。

- MUSICフォルダ内にサブフォルダを作成することができます。サブフォルダは２階層下まで作成できます。本機ではフォルダ内のみを再生範囲に設定することもできますので、取り込む楽曲のカテゴリーや演奏者別に整理しておくと便利です。（ → 25ページ「フォルダ操作」）
- サブフォルダや楽曲に希望の名前を付けておくと、本機の画面に表示されます。

4. コピーを終えたら、パソコン側でDR-1の接続を解除してから、USBケーブルを抜きます。

   パソコン側での接続解除方法については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

   本機が再起動します。

第7章　基本再生

ホーム画面表示中、►/❚❚キー、⏮キー、⏭キーを使って、通常のCDプレーヤーなどと同じように操作します。

またホイールを使って再生位置の移動ができます。

メモ

ホーム画面を表示していないとき、これらのキー／ホイールは別の働きをします。

以下の説明は、本機で再生可能なオーディオファイルを収録したSDカードがセットされていることを前提にしています。

再生する

停止中に►/❚❚キーを押すと、再生を始めます。

停止する

再生中に►/❚❚キーまたはSTOP/HOMEキーを押すと、その位置で停止します。

ファイルを選ぶ

再生中や停止中に⏮／⏭キーを使ってファイルを選択します。

再生中あるいはファイルの途中で停止しているときに⏮キーを押すと、ファイルの先頭に戻ります。

ファイルの先頭で停止しているときに⏮キー押すと、手前のファイルにスキップします。

⏭キーを押すと、常に次のファイルにスキップします。

メモ

再生できるファイルは、再生エリア内のファイルです。（→22ページ「PLAY MODE画面を使って再生エリアを設定する」）

メモ

再生中のファイル情報（曲名など）やファイル番号がディスプレイ上に表示されます。

メモ

ファイルの先頭で停止しているときは、ディスプレイに動作アイコン■を表示します。ファイルの途中で停止しているときは、動作アイコン❚❚を表示します。

早戻し／早送りする

⏮／⏭キーを押し続けると早戻し／早送りサーチを行ないます。

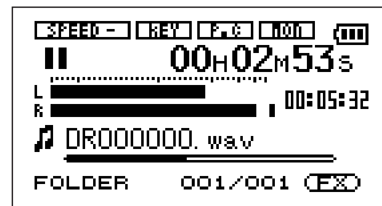
メモ

SETUP画面の**CUE/REV SPEED**項目を使って、サーチスピードを設定することができます。（→31ページ「環境設定など」）

ホイールを使って再生位置を移動する

ホイールを使って、ファイル内の再生位置を移動することができます。

ホイールを回すと、再生位置表示バーの示す位置が変わり、再生位置が移動していることが確認できます。

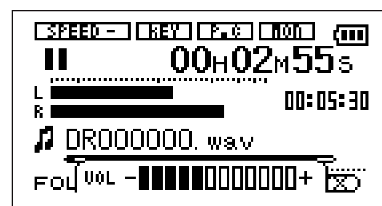


メモ

ホイールを回している間、音声は出力されません。

音量を調節する

🎧/LINE OUT端子から出力されるモニター信号の音量を、OUTPUT VOLUMEキーを使って調節します。調整中、ボリューム位置がディスプレイに表示されます。



メモ

MIX BALANCEキーを使って再生音量を下げた状態でオーバーダビングしたオーディオファイルを再生すると、モニターレベルが録音時より低くなります。この場合はMIX BALANCE ＋キーを使ってミックスバランスを最大にしてください。

本機は内蔵マイクを使った録音の他に、外部マイクあるいは外部オーディオ機器（CDプレーヤーなど）を録音することができます。録音オーディオファイル形式はMP3（32kbps～320kbps、44.1kHz／48kHz）、WAV（44.1／48kHz、16／24ビット）から選択可能です。さらに本機では、オーディオファイルを再生しながら入力信号をミックスして録音することができます（オーバーダビング機能）。

ファイル形式／サンプリング周波数を選択する

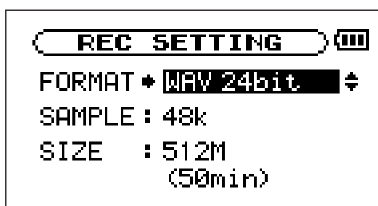
録音を実行する前に、録音オーディオのファイル形式を選択します。

1. MENUキーを押します。

メニューリスト画面が表示されます。

2. **REC SETTING** メニューを選択します。

REC SETTING 画面が表示されます。



3. **FORMAT** 項目で、ファイル形式を選択します。

以下の中から選択できます。

WAV 16bit（初期設定）、WAV 24bit、

MP3 32kbps,64kbps,96kbps,128kbps,192kbps,256kbps,320kbps

メ モ

オーバーダビングをする場合、ファイル形式をWAVに設定してください。MP3に設定してオーバーダビング録音を行なうことはできません。（ → 20ページ「オーバーダビングをする」）

メ モ

WAVはデータ圧縮をしない音質重視のファイル形式ですが、メモリーをたくさん使います。MP3はデータを圧縮するファイル形式ですので、メモリーをあまり消費しません。

4. **SAMPLES** 項目で、サンプリング周波数を選択します。

44.1kHz（初期設定）または48kHzを選ぶことができます。

最大ファイルサイズを設定する

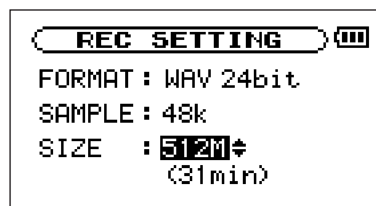
上記のオーディオファイル形式を選択する **REC SETTING** 画面で、作成するオーディオファイルの最大ファイルサイズを設定します。オーディオを録音中、設定した最大ファイルサイズに達すると自動的に録音が終了します。

1. MENUキーを押します。

メニューリスト画面が表示されます。

2. **REC SETTING** メニューを選択します。

REC SETTING 画面が表示されます。



3. **REC SETTING** 項目で、最大ファイルサイズを選択します。

以下の中から選択できます。

64M、**128M**、**256M**、**512M**、**1G**、**2G**(初期設定)

ファイルサイズ値の下に、選択サイズにおける録音時間が表示されます。

メ モ

ファイル形式によって、同じファイルサイズにおける録音時間が異なります。また録音時間が24時間以上の場合、23時59分59秒として表示されます。

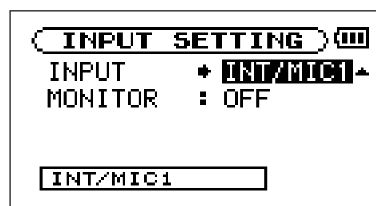
入力ソースを選択する

以下の手順で入力ソースを選択します。

メ モ

録音時、入力ソースが録音ソースになります。

1. SETTINGキーを押して、**INPUT SETTING** 画面を表示します。



2. **INPUT** 項目で希望の入力ソースを選択します。

・INT/MIC1：

MIC1 IN端子（ステレオミニジャック）にマイクケーブルを接続していないときは内蔵マイク、接続しているときはMIC1 IN端子に入力されるマイク信号が入力ソースになります。

INT/MIC1 選択時は、入力の機能の設定を行ないます。（ → 18ページ「INT/MIC1入力の機能を設定する」）

・MIC2：

フロントパネルのMIC2 IN端子（モノラル標準ジャック）に入力されるマイク信号が録音ソースになります。L/R両チャンネルに同じ信号が供給されます。

・LINE：

リアパネルのLINE IN端子（ステレオミニジャック）に入力されるラインレベル信号（－10dBV）が録音ソースになります。

ご注意

マイクを使って録音を行なうときは、モニターはヘッドホンを使って行なってください。スピーカーを使ってモニターすると、スピーカーの出力音が入力されて、正常な音で録音できなかったり、ハウリング（フィードバック）を起こす可能性があります。

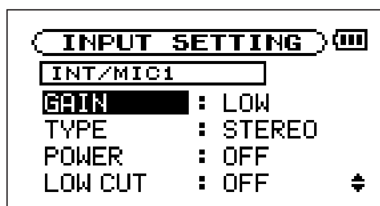
ヒント

本機にはエフェクターが内蔵され、必要に応じて入力ソースに掛けることができます。（ → 29ページ「内蔵エフェクターを使う」）

INT/MIC1 入力の機能を設定する

INPUT 項目で **INT/MIC1** を選択した場合、⏮ キーを押して **INPUT** を反転させてから、ホイールを右に回します。

INT/MIC1 入力の機能設定画面になります。



この画面には以下の設定項目があります。**POWER** 項目以外の設定は、内蔵マイクに対しても有効です。

GAIN

入力の感度（**HIGH,MID** または **LOW**）を選択します。初期設定は"**MID**"です。入力レベルが低すぎるときは"**HIGH**"を、入力レベルが高いときは"**LOW**"を選択してください。

TYPE

接続するマイクに応じて、ステレオ（**STEREO**）またはモノラル（**MONO**）を選択します。初期設定は **STEREO** です。"**MONO**" を選択すると、L/R両チャンネルに同じ信号が供給されます。

POWER

プラグインパワーを必要とするマイクを接続したとき、"**ON**" に設定します。初期設定は **OFF** です（内臓マイク使用時は OFFとしてください）。

ご注意

ダイナミックマイクや電池内蔵のマイクを接続するときは "**OFF**" に設定してください。"**ON**" にするとマイクの故障の原因になる恐れがあります。

LOW CUT

ローカットフィルターの設定を行ないます。

初期設定は **OFF** です。"**80Hz**" または "**120Hz**" を選択すると、それぞれのカットオフ周波数を持つローカットフィルターが働きます。

メモ

屋外での録音などで風の音が入る場合は **"ON"** に設定してみてください。

LEVEL CTRL

レベルコントロールの機能を設定します。

初期設定は **"OFF"** です。

AUTO にすると
入力レベルに応じて本機の入力ゲインが変化し、大きい音も小さい音も一定のレベルになります。

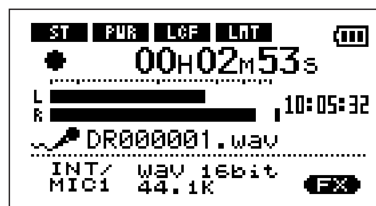
LMT にすると
入力レベルに応じて本機の入力ゲインが変化し、大きい音が入力されても歪まないようなレベルになります。

メモ

ライブなどで不意に大きな音が入力されてしまう時に **"LMT"** にすると、過大入力を防いで歪みのない録音ができます。

録音画面上の入力機能表示

録音画面上に、TYPE、POWER、LOW CUT、LEVEL CTRLの設定状況がアイコン表示されます。



ST：　**TYPE** 項目を **"STEREO"** に設定すると反転します。

PWR：　**POWER** 項目を **"ON"** に設定すると反転します。

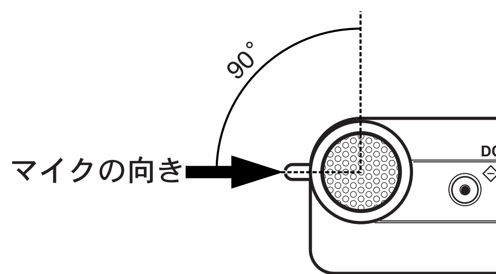
LCF：　**LOW CUT** 項目を **"80Hz"** または **"120Hz"** に設定すると反転します。

LEVEL CTRL：　**LEVEL CTRL** 項目を **"AUTO"** または **"LMT"** に設定すると反転します。

内蔵マイクの角度を調整する

内蔵マイクの角度を変えることができます。録音時の本機の置き方と音源の位置に応じて、最適な角度を選んでください。

角度調節は以下のように90°の範囲で変えることができます。



マイクの入力レベルを調節する

各マイク入力のレベルを調節することができます（LINE IN端子からの信号の入力レベルは固定です）。

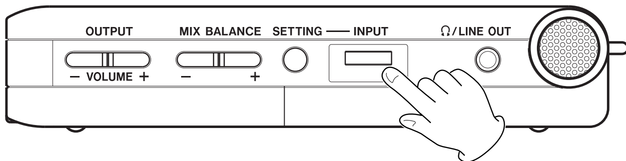
以下に録音画面を使ってレベル設定を行なう手順を説明します。

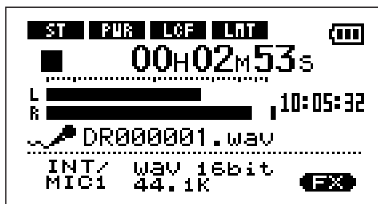
1. REC/PAUSEキーを押して録音待機にします。

   キーが赤く点滅し、ディスプレイが録音画面になります。



2. 右サイドパネルのINPUTボリュームを使って、マイクの入力レベルを調節します。





   入力レベルがL/Rメーターに表示されます。入力が高過ぎると、ディスプレイの脇にあるPEAKインジケーターが点灯します。

   PEAKインジケーターが点灯する手前ぐらいにレベルを設定してください。

- 入力ソースとして**INT/MIC1**を選択して内蔵マイクまたはMIC1入力を使っているとき、INPUTボリュームを最大にしてもレベルが低い場合は、**INT/MIC1**入力の機能設定画面で**GAIN**項目をより高い設定にしてください。（→ 18ページ「INT/MIC1入力の機能を設定する)」
- 入力ソースとして **"LINE"** を選択した場合、入力のレベルは、ソース側で調節してください。

メモ

録音待機を解除するにはSTOP/HOMEキーを押します。

ヒント

INPUTボリュームの調節だけでなく、マイクと音源との距離や向きを調節してみてください。また、マイクの向き距離や向きによって音質が変わります。

録音について

本機は、入力した信号を録音する通常録音に加えて、再生信号と入力信号をミックスして録音するオーバーダビングが可能です。

・**通常録音**：

通常の録音（入力信号の録音）を行ないます。自動的に新しいファイルが作成されます。

・**オーバーダビング**：

オーディオファイルの再生信号に入力信号をミックスして録音します。例えば、カラオケを録音したファイルに合わせて演奏した歌や楽器を録音することができます。

この場合も自動的に新しいファイルが作成され、再生したオーディオファイルは上書きされません。

ヒント

オーバーダビングを使って、次々と音を重ねていくことができますので、本機を簡易MTRのように使うことができます。

通常の録音をする

以下の操作手順は、すでに入力が選択され、レベル調整を終え、ホーム画面が表示されていることを前提にしています。

1. REC/PAUSEキーを押して録音待機にします。



   画面には録音ファイル名とともに、入力ソース、録音オーディオファイル形式およびサンプリング周波数が表示されますので、録音を開始する前に確認することができます。

メモ

INPUT SETTING画面の**MONITOR**項目を **"ON"** にして常に入力をモニターできる状態にした場合、オーバーダビング **"ON/OFF"** を選択するポップアップが表示されます。この場合、**"OFF"** を反転した状態で次の手順2に進んでください。

2. 再びREC/PAUSEキーを押します。

   通常の録音が始まります。



   録音が始まるとREC/PAUSEキーが点灯に変わり、ディスプレイには録音経過時間および録音残時間が表示されます。

3. 録音を終了するにはSTOP/HOMEキーを押します。

オーディオファイルが作成されます。

● 録音を一時停止するにはREC/PAUSEキーを押します。再度REC/PAUSEキーを押すと、同じファイルに続きが録音されます。一時停止後にSTOP/HOMEキーを押すと、一時停止までを録音したオーディオファイルが作成されます。

オーバーダビングをする

保存されている曲を再生しながら演奏し、両方の音をミックスして新たなファイルに録音します。

準備する

オーバーダビングをする場合、以下の準備が必要です。

● ファイル形式を **"WAV"** に設定します。

オーバーダビングで作成できるのはWAVファイルのみです。

1. MENUキーを押して**MENU**画面を表示します。
2. ホイールを使って**REC SETTING**を反転し、►/❚❚キーを押します。
3. ホイールを使って**FORMAT**を反転し、►/❚❚キーを押します。
4. ホイールを使って、**"WAV 16bit"** または **"WAV 24bit"** を選択します。
5. STOP/HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

● **INPUT SETTING**画面の**MONITOR**項目を **"ON"** にします。

1. SETTINGキーを押して**INPUT SETTING**画面を表示します。
2. ホイールを使って**MONITOR**項目を反転し、►/❚❚キーを押します。
3. ホイールを使って **"ON"** を選択します。

この状態で、常に入力信号をモニターできるようになります。

すなわち、再生中は再生信号と入力信号のミックス信号をモニターできます。

4. STOP/HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

ヒント

上記の設定にすると、オーバーダビング以外に、録音した（あるいは取り込んだ）オーディオファイルに合わせて歌や楽器の練習をしたり、カラオケを楽しむことができます。

録音する

以下の操作手順は、すでに入力が選択され、レベル調整を終え、上記の準備を終えていることを前提にしています。

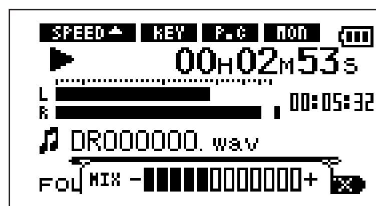
1. ホーム画面表示中、⏮／⏭キーを使って、再生するファイルを選択します。

メモ

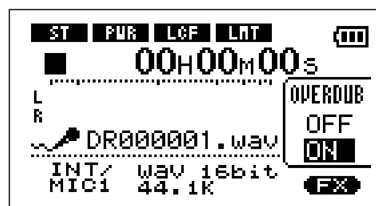
現在の再生エリア以外のファイルを再生する場合、**BROWSE**画面で直接ファイルを選択するか（ → 25ページ「ブラウズ（BROWSE）画面」）、**PLAY MODE**画面で希望の再生エリアを選択してから上記操作を行ないます。（ → 22ページ「PLAY MODE画面を使って再生エリアを設定する」）

2. ►/❚❚キーを押して再生を開始しながら演奏を行ない、再生音と歌（演奏）との音量バランスをチェックします。
3. 必要に応じて、MIX BALANCEキーを使って再生信号の音量を増減することによって、バランスを調節します。

調整中（キー操作中）、再生ボリュームがディスプレイの下部にバー表示されます。



4. REC/PAUSEキーを押して録音待機にします。

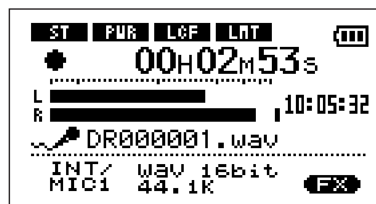


画面にオーバーダビング オン/オフのポップアップが表示されます。

また録音ファイル名、入力ソース、録音オーディオファイルの形式／サンプリング周波数が表示されますので、録音を開始する前に確認することができます。

5. ホイールを使って、オーバーダビング オン/オフのポップアップ上の **"ON"** を反転します。
6. 再びREC/PAUSEキーを押します。

オーバーダビングが始まります。



録音が始まるとREC/PAUSEキーが点灯に変わり、ディスプレイには録音経過時間および録音残時間が表示されます。

また、下部には再生されているファイル名が表示されます。

メモ

オーバーダビングをする場合、ファイル形式を **"WAV"** に設定してください（ → 17ページ「ファイル形式／サンプリング周波数を選択する」）。ファイル形式をMP3に設定した状態で録音を開始しようとすると、メッセージ（**Format is MP3**）が表示され、操作を受け付けません。

7. 録音を終了するには再生するファイルを**BROWSE**画面で直接選択するか（ → 25ページ「ブラウズ（BROWSE）画面」）、あるいはSTOPキーを押します。

ご注意

オーバーダビング中は、一時停止はできません（REC/PAUSEキー操作を受け付けません）。

ホーム画面上では、⏮ ／ ⏭ キーを使って再生曲（ファイル）を選びます。このときに選択可能なファイルの範囲を「再生エリア」として設定することができます。

カード上に数多くのファイルが記録されている場合など、選択範囲を限定することにより選択がやりやすくなります。

PLAY MODE 画面で、再生エリアを全ファイル、現在のフォルダ、プレイリストの中から選択することができます。また、**BROWSE** 画面を使って希望のフォルダを再生エリアに設定することができます。

メ モ

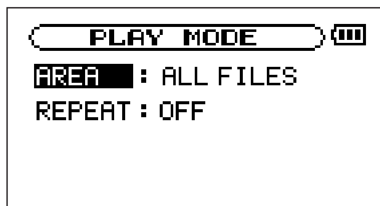
BROWSE 画面では、再生エリア設定にかかわらず、カード上の希望のファイルを選択することができます。

PLAY MODE画面を使って再生エリアを設定する

PLAY MODE 画面で再生エリアを選択するには、以下の操作を行ないます。

1. MENU キーを押してメニューリスト画面を表示し、**PLAY MODE** を反転して ►/❚❚ キーを押します。

   PLAY MODE 画面が表示されます。



2. **AREA** 項目を反転し、►/❚❚ キーを押します。
3. 以下の中から再生エリアを選択します。

ALL

カード上の MUSIC フォルダ内の全ファイルを再生することができます。

FOLDER

現在選ばれているファイルが含まれているフォルダ内のファイルを再生することができます。

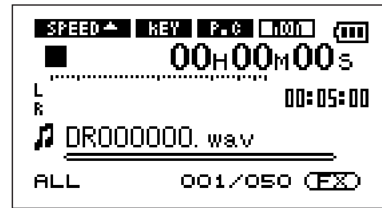
PLAYLIST

プレイリスト内のファイルを再生することができます。（ → 23 ページ「プレイリスト」）

プレイリストが存在しない場合は **"No PLAYLIST"** をポップアップ表示します。

メ モ

再生エリアの現在の設定がホーム画面左下部に表示されます。

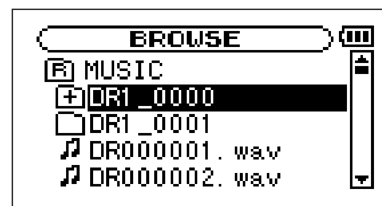


BROWSE画面を使って再生エリアのフォルダを選択する（1）

現在の再生エリアにかかわらず、**BROWSE** 画面でフォルダを選択すると、選択したフォルダが再生エリアになります。

1. MENU キーを押してメニューリストを表示し、**BROWSE** を反転して ►/❚❚ キーを押します。

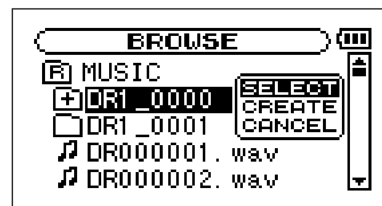
   BROWSE 画面が表示されます。



2. 希望のフォルダを反転します。

   BROWSE 画面でのナビゲーション操作については、「画面内のナビゲーション」（25 ページ）をご覧ください。

3. ►/❚❚ キーを押すと、以下のポップアップウィンドウが表示されます。



SELECT 項目が反転しているときに ►/❚❚ キーを押します。

ディスプレイがホーム画面に戻り、フォルダ内の最初のファイルが選択されます。以前の再生エリア設定にかかわらず、このフォルダが再生エリアになります。

BROWSE画面を使って再生エリアのフォルダを選択する (2)

再生エリアがFOLDERのとき、**BROWSE**画面でファイルを選択すると、選択したファイルを含むフォルダが再生エリアになります。

1. MENUキーを押してメニューリストを表示し、**BROWSE**を反転して►/❚❚キーを押します。

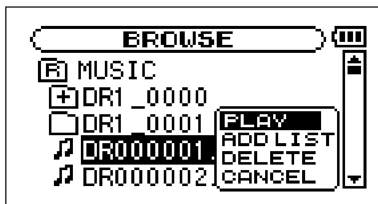
   BROWSE画面が表示されます。



2. 希望のファイルを反転します。

   BROWSE画面でのナビゲーション操作については、「画面内のナビゲーション」（25ページ）をご覧ください。

3. ►/❚❚キーを押すと、以下のポップアップウィンドウが表示されます。



   PLAY項目が反転しているときに►/❚❚キーを押します。

   ディスプレイがホーム画面に戻り、選択したファイルの再生が始まります。また、以前の再生エリアフォルダにかかわらず、このファイルを含むフォルダが再生エリアになります。

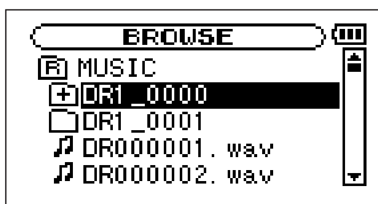
プレイリスト

再生するファイルのリスト（プレイリスト）を作成することができます。**PLAY MODE**画面の**AREA**項目で **"PLAY LIST"** を選択すると、プレイリスト上の曲を再生することができます。

プレイリストに登録する

1. MENUキーを押してメニューリスト画面を表示し、**BROWSE**を反転して►/❚❚キーを押します。

   BROWSE画面が表示されます。

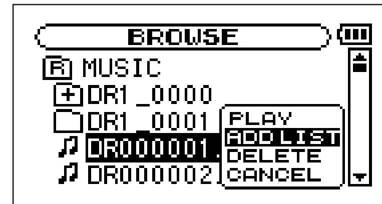


メモ

BROWSE画面の詳細については、「ブラウズ(BROWSE)画面」（25ページ）をご覧ください。

2. プレイリストに登録したいファイルを選択し、►/❚❚キーを押します。

   ポップアップウィンドウが表示されます。



メモ

ファイルの選択方法の詳細については、「画面内のナビゲーション」（25ページ）をご覧ください。

3. **"ADD LIST"** を選択して►/❚❚キーを押します。

   曲がプレイリストに登録され、ポップアップウィンドウが閉じます。

4. 必要に応じて上記手順２、３を繰り返します。

   リスト上では、登録順に曲番号が付けられます。

プレイリストを編集する

PLAY LIST画面には作成したプレイリストが表示されます。またこの画面を使って、ファイルの再生やプレイリストの編集を行なうことができます。

1. MENUキーを押してメニューリストを表示し、**PLAY LIST**を反転して►/❚❚キーを押します。

   PLAY LIST画面が表示されます。



2. 編集したいファイルを反転し、►/❚❚キーを押します。

   ポップアップウィンドウが表示されます。



   ホイールを使って希望の項目を反転し、►/❚❚キーを押すと、本機が以下の動作を行ないます。

PLAY

ファイルを再生します。ディスプレイがホーム画面に戻ります。

ALL CLR

プレイリスト上のすべてのファイルを削除する確認メッセージを表示しますので、削除する場合は ►/II キーを押します。削除しない場合は STOP キーを押します。

この操作の場合、手順２でどの曲を選択してもかまいません。全ファイルがプレイリストから削除されますが、SD カードからは削除されません。

DELETE

曲をプレイリストから削除します。

プレイリストから削除されますが、SD カードからは削除されません。

MOVE

ファイル名だけでなく、曲番数字も反転表示になります。

以下の操作によってプレイリスト上の順番を変更できます。

ホイールを使って、プレイリスト内で選択ファイルを移動します。



上図は４曲目のファイルを３曲目に移動した例です。

3. ►/II キーを押します。

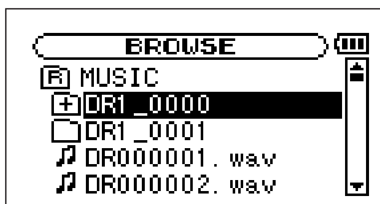
移動が完了して、通常の **PLAY LIST** 画面に戻ります。

BROWSE画面では、SDカード上のMUSICフォルダ（オーディオファイルの収納フォルダ）の内容を見ることができます。またこの画面で、選択したオーディオファイルの再生や削除、フォルダの作成やプレイリストへの登録などができます。（→ 23ページ「プレイリスト」）

ヒント

本機とパソコンをUSB接続するか、あるいはSDカードを直接パソコンにセットすることにより、パソコンからもMUSICフォルダ内のフォルダ構成の変更やファイルの削除ができます。さらにパソコンからはファイル名の編集が可能です。

BROWSE画面を表示するには、MENUキーを押してメニューリスト画面（**MENU**画面）を表示し、**BROWSE**を反転して►/❚❚キーを押します。



画面には、**BROWSE**画面を表示する前にホーム画面で選択されていたファイルを含むフォルダの内容が表示されます。

画面内のナビゲーション

BROWSE画面には、パソコンにおけるファイルのリスト表示のように、フォルダや音楽ファイルが「階層ツリー形式」で表示されます。フォルダは第2階層まで作成できます。

- ホイールを使ってファイルやフォルダを選択（反転）します。
- フォルダが反転中に ►►❚ キーを押すと、フォルダの内容が表示されます。
- ファイルやフォルダが反転中に ❚◄◄ キーを押すと、現在開いているフォルダが閉じて、上位の階層レベルが表示されます。

画面内のアイコン表示

以下に**BROWSE**画面内のアイコン表示内容を説明します。

MUSICフォルダ　（ R ）MUSIC

　ルート（ROOT）階層表示中の**BROWSE**画面では、最上段にMUSICフォルダが表示されます。

オーディオファイル（ ♫ ）

　音楽ファイルは（ ♫ ）のあとにファイル名が表示されます。

フォルダ（＋付きフォルダアイコン ⊞ ）

　内部にフォルダが存在するフォルダです。

フォルダ（真っ白のフォルダアイコン ▢ ）

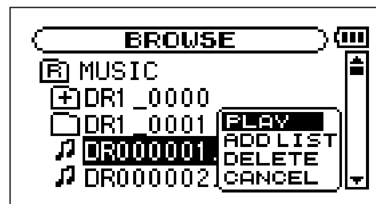
　内部にフォルダが存在しないフォルダです。

表示中のフォルダ（開いたフォルダアイコン ）

　現在、このフォルダの内容を画面表示しています。

ファイル操作

BROWSE画面内の希望のオーディオファイルを反転して►/❚❚キーを押すと、以下のポップアップウィンドウが表示されます。



ホイールを使って希望の項目を反転し、►/❚❚キーを押すと、本機が以下の動作を行ないます。

・PLAY

　ファイルを再生します。ディスプレイがホーム画面に戻ります。再生エリア設定がFOLDERの場合、このファイルを含むフォルダが再生エリアになります。

・ADD LIST

　プレイリストにファイルを登録します。（→ 23ページ「プレイリスト」）

・DELETE

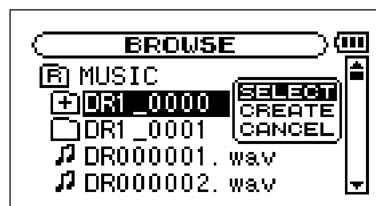
　ファイル削除の確認メッセージを表示します。►/❚❚キーを押すとファイルが削除され、STOP/HOMEキーを押すと削除が中止されます。

・CANCEL

　選択中のファイルに関する操作をキャンセルします。

フォルダ操作

BROWSE画面内の希望のフォルダを反転し、►/❚❚キーを押すと、以下のポップアップウィンドウが表示されます。



ホイールを使って希望の項目を反転し、►/❚❚キーを押すと、本機が以下の動作を行ないます。

・SELECT

　ホーム画面に戻り、フォルダ内の最初のファイルが選択されます。直前の再生エリア設定にかかわらず、このフォルダが再生エリアになります。また録音を行なったとき、このフォルダにファイルが作成されます。

・CREATE

新たなフォルダを作成する確認のポップアップを表示します。►/❚❚キーを押すとフォルダが作成され、STOP/HOMEキーを押すと作成が中止されます。

ただし、第２階層のフォルダ上でSELECTを選択すると、**"Layer is deep."** が表示され、フォルダ作成を受け付けません。

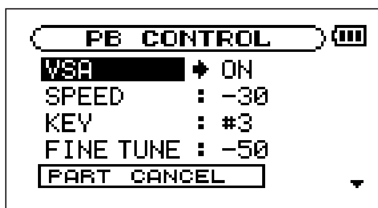
・CANCEL

選択中のフォルダに関する操作をキャンセルします。

本機の再生コントロール機能を使って、再生スピードを変えることができるだけでなく、音程を変えずにスピードを変えたり、逆にスピードを変えずに音程を変えることもできます。また曲中の歌やソロ楽器の音を削減（キャンセル）することができます。これらの再生コントロール機能を使って、練習やフレーズコピーを効果的に行なうことができます。

再生コントロール機能を設定する

再生コントロール機能の設定は **PB CONTROL** 画面で行ないます。ホーム画面表示中に PB CONTROL キーを長押しすると、**PB CONTROL** 画面が表示されます。



この画面内での設定作業を終えた後、STOP/HOME キーを押すと（または PB CONTROL キーを長押しすると）ホーム画面に戻ります。

ホーム画面上部では、現在有効になっている再生コントロール機能のアイコンが反転表示になります。

スピードを変える

SPEED 項目を使って再生スピードを設定することができます。ただしスピードを設定しただけではスピードコントロール機能は有効ではありません。設定後、PB CONTROL キーを短く押すと、スピードコントロールがオン（有効）になります。オンにするとホーム画面上部の **SPEED** アイコンが反転します。PB CONTROL キーを短く押すたびにスピードコントロールのオン／オフが切り換わりますので、設定したスピードとノーマルスピードを簡単に切り換えることができます。

スピード可変範囲は－50 %～＋16 %（1 %刻み）ですので、最も遅いスピード設定では元のスピードの半分になります。

メモ

PB CONTROL キーを短く押すことでオン／オフが切り換わるのは、再生コントロール機能の中のスピード設定機能のみです。他の再生コントロール機能の場合、**PB CONTROL** 画面で初期設定以外の値に設定しているとき、常にオンになります。

キーを変えずにスピードを変える

VSA 機能（Variable Speed Audition）をオンにすると、曲のキーを保ったままスピードを変えることができます。

VSA 項目を使って VSA 機能のオン／オフを切り換えます（初期設定は **ON**）。

キーだけを変える

KEY 項目を使って、スピードを変えずにキーだけを半音単位で変えることができます。

KEY 項目では、±6半音の範囲（♭6 ～♯6）でキーを上下できます（初期設定は **0**）。

キーを変えると（0 以外に設定すると）、キーコントロール機能がオンになり、ホーム画面上の **"KEY"** が反転します。

FINE 項目を使うと、キーを微調整することができます。

セント（半音の 1/100 ）単位でキーを上下できます。

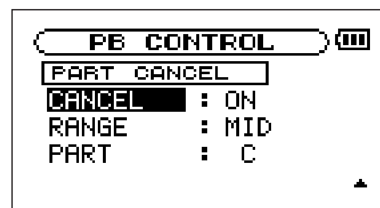
メモ

FINE 項目でキーの微調整を行なっても、**KEY** 項目の設定が **"0"** のときはホーム画面上の **"KEY"** は反転しません。

ボーカルやソロ楽器を減衰する

多くの市販の音源（CD など）の場合、録音されているボーカルやソロ楽器の音を削減することができます（パートキャンセル機能）。

PART CANCEL 項目を使って機能を設定します。ホイールを使って **PART CANCEL** 項目を選択すると、**PART CANCEL** 画面に変わり、3 つのサブ項目が表示されます。



CANCEL 項目：（初期設定は **OFF**）**"ON"** に設定するとパートキャンセル機能がオンになり、ホーム画面上の **"P.C"** が反転します。

音源によってはパートキャンセル機能を使ってもボーカルやソロ楽器を十分に減衰できない場合があります。その場合、以下の 2 項目の設定を変えることにより、一層効果的にキャンセルできる場合があります。実際の音を聞きながら、最適な設定を選んでください。

RANGE 項目：減衰させたい音の音域に合わせて MID（中音域）、または ALL（全音域）を選択します。初期設定は **MID** です。

PART 項目：減衰させたい音の定位に合わせて設定します（L10 ～CENTER ～R10）。初期設定は **CENTER** です。

第12章　ループ再生／リピート再生／1曲再生

通常の再生モードで再生を始めると、再生エリア内の最後まで再生を行なった後に停止します。これに対して、本章に述べる操作／設定を行なうことにより、ファイル内の希望区間の繰り返し再生、再生エリア内の繰り返し再生、1曲の繰り返し再生、1曲だけの再生を行なうことができます。

ループ再生する

以下の手順で、ファイル内の希望の区間を繰り返し再生（ループ再生）することができます。

1. 再生中（または一時停止中）、ループ再生したい区間の始点で **I/O** キーを押します。

   現在位置がIN点（始点）として設定されます。

2. ループ再生したい区間の終点で **I/O** キーを押します。

   現在位置がOUT点（終点）として設定され、IN-OUT点間のループ再生が開始されます。

● ホーム画面の再生位置表示バーの下部には、IN点、OUT点それぞれの設定に該当する位置に "◢"、"◣" が点灯します。またループ再生中、I↔O が点灯します。

● ループ再生を中止するには、LOOPキーまたは **I/O** キーを押します。

　LOOPキーを押した場合、ループ区間の設定が残り、再びLOOPキーを押すとまたループ再生が始まります。

　I/O キーを押した場合、ループ区間の設定がクリアされます。

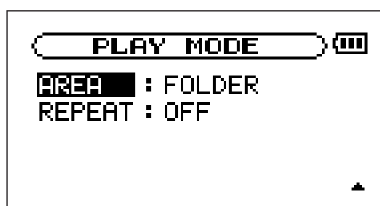
メモ

MP3ファイルがVBR形式の場合、正確なIN点、OUT点の指定ができない場合があります。

リピート再生する／1曲再生する

現在の曲（1曲）または再生エリア内の全曲を繰り返し再生（リピート再生）したり、1曲だけ再生することができます。

1. MENUキーを押してメニューリスト画面を表示し、**PLAY MODE** を反転して ►/❚❚ キーを押します。



2. REPEAT MODE項目で再生モードを選択します。

・ OFF：

　通常の再生（再生エリア内の連続再生）を行なうモードです。

・ SINGLE：

　1曲だけ再生するモードです。リピートは行ないません。

　ホーム画面に SINGLE が表示されます。

・ 1 REPEAT：

　再生中の曲をリピート再生するモードです。

　ホーム画面に 1 が表示されます。

・ ALL REPEAT：

　再生エリアで選択した範囲内の全曲をリピート再生するモードです。

　ホーム画面に AL が表示されます。

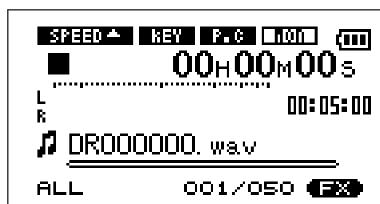
メモ

上記 **REPEAT MODE** 項目を **OFF** 以外に設定しているときにループ再生を実行すると、**REPEAT MODE** が自動的に **"OFF"** になります。

本機にはエフェクターが内蔵されています。録音時や練習時、入力信号にエフェクトを掛けることができます。

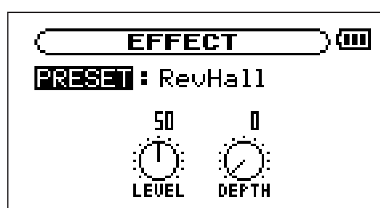
エフェクターのオン／オフを切り換える

FX キーを短く押すたびにエフェクターのオン／オフが切り換わります。オンにすると、最後に **EFFECT** 画面で設定したエフェクトが有効になります（初期設定は **RevHall**）。またオンのときにホーム画面右下の **"FX"** が反転します。



エフェクトを設定する

FX キーを長押しすると **EFFECT** 画面が表示されます。



上図のように、**EFFECT** 画面には３つの設定項目があります。

他の設定画面と見た目が異なりますが、操作方法は同じです。すなわち：

1. ホイールを使って希望の項目を反転（選択）し、►/II キーを押して確定すると、選択肢／値の設定ができるようになります。
2. ホイールを使って希望の選択肢／値に設定します。
3. 設定後、I◄◄ キーを押すと、項目を選択できる状態に戻ります。

PRESET

プリセットエフェクトの内容については「エフェクタープリセット一覧」（34ページ）をご覧ください。

パラメータ１

PRESET 項目で選択したプリセットエフェクトの出力レベルを変更することができます。LEVEL つまみのアイコンを反転表示して ►/II キーを押すと、アイコン上部の数値が反転表示になり、レベル設定（0～100）が可能になります。

パラメータ２

PRESET 項目で選択したプリセットエフェクトの効果を変えることができます。**DEPTH** つまみのアイコンを反転表示して ►/II キーを押すと、アイコン上部の数値が反転表示になり、設定が可能になります。

EFFECT 画面を終了するには

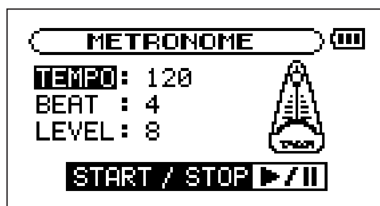
STOP/HOME キーを押すと（または FX キーを長押しすると）ホーム画面に戻ります。

第14章　メトロノームを使う

本機はメトロノームを内蔵しています。メトロノーム音は Ω /LINE OUT端子から出力されます。

メトロノームを設定する

メトロノームを使うには、MENUキーを押してメニューリストを表示し、**METRONOME**を反転して►/❚❚キーを押します。



メトロノーム画面で以下の項目の設定を行ないます。

TEMPO

スピードを設定します。20 〜250の範囲で設定できます。

BEAT

拍子を設定します。拍子の１拍目にアクセントがつきます。拍子は0 〜9の範囲で設定できます。**0**に設定するとアクセントがありません。

LEVEL

メトロノーム音量を設定します。

メトロノームのスタート／ストップ

メトロノーム画面表示中、►/❚❚キーを使ってメトロノームのスタート／ストップを行ないます。

メ モ

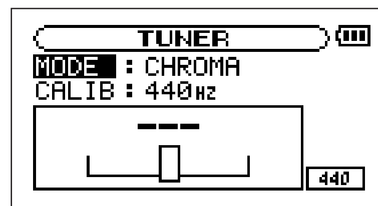
メトロノーム動作中はホーム画面に戻ることができません。

第15章　チューナーを使う

本機はチューナーを内蔵しています。楽器の音をマイクを通して本機に入力することによって、ディスプレイ上のチューニングメーターを見ながら正確なチューニングができます。また、チューナーの音をΩ /LINE OUT端子から出力することができますので、複数の楽器を同時にチューニングするときなど便利です。

準備する

1. MENUキーを押してメニューリストを表示し、**TUNER**を反転して►/❚❚キーを押します。



2. **MODE**項目でチューナーモードを選択します。

   CHROMA ：クロマチックチューナーモード

   OSC.：オシレーターモード

3. **CALIB**項目でＡ音の基準周波数を435Hz～445Hzの範囲で設定します。

   設定値は画面右下部に表示されます。

   この設定は両方のチューナーモードに共通です。

以下にチューナーモード別に操作方法を説明します。

クロマチックチューナーモード

通常のモードです。本機のチューニングメーターを見ながら楽器をチューニングすることができます。

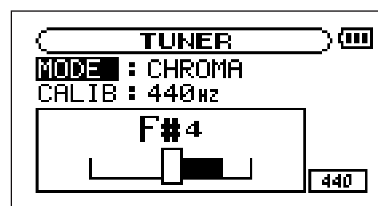
画面にはチューニングメーターと入力信号の音名が表示されます（入力がないときの音名表示は"**−−−**"）。

1. 使用するマイクを入力ソースに設定します。（ → 17ページ「入力ソースを選択する」）
2. チューニングする楽器の音をマイクに入力します。

   もっとも近い音名がメーター上部に表示されます。

3. 合わせたい音名が表示されて、メーター中央部が点灯するようにチューニングします。

   チューニングが低すぎる場合は左側、高すぎる場合は右側にバーが表示されます。ズレが大きいほど、バーが長く表示されます。



第15章　チューナーを使う

オシレーターモード

内蔵のオシレーターを使って、3オクターブ（C4音～B6音）の範囲のサイン波を 🎧/LINE OUT端子から出力することができます。

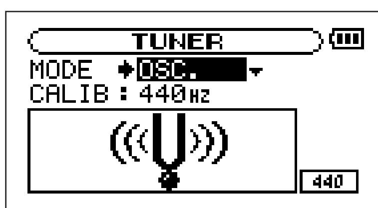
オシレーターモードには前述の**CARIB**項目の他に、以下の3つの設定項目があります。

NOTE項目

発生する音（C4音～B6音）を選択します。

OUT項目

オシレーター音を出力するかしないか（**ON**または**OFF**）を選択します。**"ON"** に設定すると、音叉から音が発生しているようなビジュアル表示になります。



クロマチックモードからオシレータモードに切り換えると、**OUT**項目が自動的に **"ON"** になります。オシレータモードからクロマチックモードに切り換えると、**OUT**項目が自動的に **"OFF"** になります。

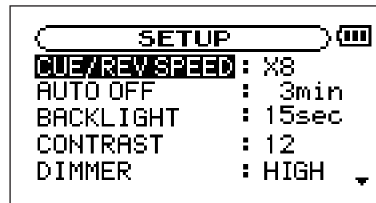
LEVEL項目

発生音の出力レベル（0～10）を設定します。

第16章　環境設定など

使用環境や条件に合わせて本機を快適に使うためのさまざまな設定、およびイニシャライズやフォーマットを、セットアップ画面で行ないます。

セットアップ画面を表示するには、MENUキーを押してメニューリストを表示し、**SETUP**を反転して►/IIキーを押します。



SETUP画面の各項目で、以下の設定を行なうことができます。

早送り／早戻しスピードの設定

CUE/REV SPEED項目で、►►I／I◄◄キーを押したままにしたときの早送り／早戻しのスピードを設定します。

選択肢：**x2**、**x4**、**x8**（初期設定）、**x10**

電源のオートオフ設定

AUTO OFF項目で、バッテリー駆動時、最後に動作あるいは操作してから自動的に電源がオフになるまでの時間を設定します。

選択肢：　**OFF**（初期設定、自動オフしない）、**3min**、**5min**、**10min**、**30min**

バックライトのオートオフ設定

BACKLIGHT項目で、バッテリー駆動時、最後に操作してから自動的にバックライトが消灯するまでの時間を設定します。

選択肢：　**OFF**（自動消灯しない）、**5sec**（初期設定）、**10sec**、**15sec**、**30sec**

ディスプレイコントラストの調整

CONTRAST項目で、ディスプレイのコントラストを調整します。

選択肢：　**1**～**20**（初期設定：**12**）

バックライトの輝度調整

DIMMER項目で、バックライトの輝度を調整することができます。

選択肢：　**HIGH**（初期設定）、**LOW**、**OFF**（点灯しない）

第16章　環境設定など

初期設定に戻す

INITIALIZE 項目でイニシャライズを実行することにより、本機のさまざまな設定を初期状態に戻すことができます。

1. **INITIALIZE** を反転して ►/❚❚ キーを押すと、**"Exec"** が点灯します。
2. ►/❚❚ キーを押すと、確認のポップアップウィンドウが表示されます。
3. ►/❚❚ キーを押して、イニシャライズを実行します。

   イニシャライズしない場合は STOP/HOME キーを押します。

クイックフォーマットする

QUICK FORMAT 項目で、SD カードをクイックフォーマットします。

クイックフォーマットを行なうと、カード上のすべての音楽ファイルが消去され、**MUSIC** フォルダ、**UTILITY** フォルダおよび **dr-1.sys** が自動生成されます。工場出荷時に記録されている **MANUAL** フォルダと取扱説明書の PDF ファイルは消去されます。

1. **QUICK FORMAT** 項目を選択して ►/❚❚ キーを押すと、**"Exec"** が点灯します。
2. ►/❚❚ キーを押すと、確認のポップアップウィンドウが表示されます。
3. ►/❚❚ キーを押して、クイックフォーマットを実行します。

   クイックフォーマットしない場合は STOP/HOME キーを押します。

フルフォーマットする

FULL FORMAT 項目で、SD カードをフルフォーマットします。

フルフォーマットを行なうと、カード上のすべての音楽ファイルが消去され、**MUSIC** フォルダ、**UTILITY** フォルダおよび **dr-1.sys** が自動生成されます。工場出荷時に記録されている **MANUAL** フォルダと取扱説明書の PDF ファイルは消去されます。

フルフォーマットではメモリーのエラーをチェックしながらフォーマットを実行します。

クイックフォーマットと比べて多くの時間が掛かりますので、終了するまでしばらくお待ちください。

1. **FULL FORMAT** 項目を選択して ►/❚❚ キーを押すと、"**Exec**" が点灯します。
2. ►/❚❚ キーを押すと、確認のポップアップウィンドウが表示されます。
3. ►/❚❚ キーを押して、フルフォーマットを実行します。

   フルフォーマットしない場合は SPEED/HOME キーを押します。

ご注意

フォーマットの実行は、別売の AC アダプターを使用するか、バッテリーの残量が十分な状態で行なってください。

フォーマット中にバッテリー切れになると、正常なフォーマットができない場合があります。

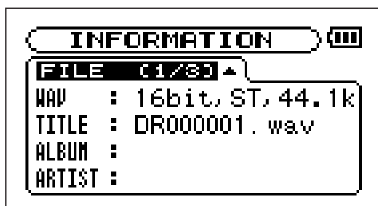
インフォメーション画面で、本機の各種情報を見ることができます。

インフォメーション画面を表示するには、MENUキーを押してメニューリストを表示し、**INFORMATION**を反転して►/IIキーを押します。

インフォメーション画面には以下の３ページがあります。ホイールを使ってこれらのページを切り換えることができます。

- ファイル情報ページ（FILE）：再生中のオーディオファイルの情報を表示
- メモリー情報ページ（MEMORY）：セットしているSDカードの使用状況を表示
- システム情報ページ（SYSTEM）：本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示

ファイル情報ページ



FILEページでは、再生中のファイルの情報を表示します。

WAVまたはMP3項目：

オーディオファイルの形式を表示します。

WAVファイルの場合、ビット長、ステレオ／モノラル、サンプリング周波数（Hz）を表示します。

MP3ファイルの場合、ビットレート（kbps）、CBR／VBR、サンプリング周波数（Hz）を表示します。

（CBR：固定ビットレート、VBR：可変ビットレート）

TITLE項目：

ファイル名を表示します。

MP3ファイルでID3TAGのタイトル情報がある場合は、その情報を表示します。

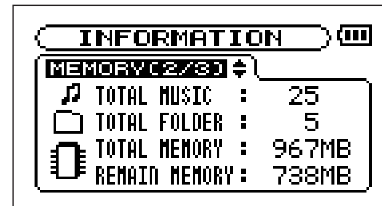
ALBUM項目：

MP3ファイルのID3TAGのアルバム情報を表示します。WAVファイルおよびID3TAG情報がないMP3ファイルの場合は、なにも表示しません。

ARTIST項目：

MP3ファイルのID3TAGのアーティスト情報を表示します。WAVファイルおよびID3TAG情報がないMP3ファイルの場合は、なにも表示しません。

メモリー情報ページ



MEMORYページでは、セットしているSDカードの使用状況を表示します。

TOTAL MUSIC：

MUSICフォルダ内にある再生可能なファイル数を表示します。

TOTAL FOLDER：

MUSICフォルダ内にあるフォルダ数を表示します。

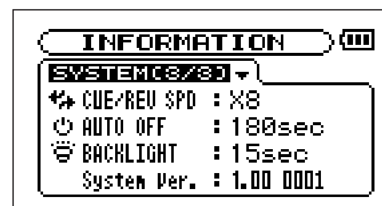
TOTAL MEMORY：

SDカードの総メモリー容量を表示します。

REMAIN MEMORY：

SDカードの残容量を表示します。

システム情報ページ



SYSTEMページでは、本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示します。

CUE/REV SPD：

送り／早戻しのスピードを表示します。

AUTO OFF：

電源のオートオフ設定を表示します。

BACKLIGHT：

バックライトのオートオフ設定を表示します。

System Ver.：

システムファームフェアのバージョン情報を表示します。

第18章　エフェクタープリセット一覧

プリセットナンバー	プリセットネーム	効　　　果
1	RevHall	ホールのような広い空間をイメージした長めの残響効果を与えます。
2	RevRoom	室内の空間をイメージした短めの残響効果を与えます。
3	RevLive	距離感をイメージした残響効果を与えます。
4	RevStudio	スタジオのような空間をイメージした残響効果を与えます。
5	RevCho	副音感を与えたサウンドに残響効果を与えます。
6	RevPit	音程を変化させたサウンドに残響効果を与えます。
7	RevEnh	きらびやかなサウンドに残響効果を与えます。
8	Emphasis	高域を強調し、輪郭をはっきりさせる効果を与えます。
9	Detune	ディチューンによる副音感を与えます。
10	AutoPan	左右に振れる効果を与えます。
11	Lo-Fi	ローファイサウンド効果を与えます。

第19章　DR-1メッセージ一覧

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。

DR-1では状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
File not found	「ファイルが見つかりません。」 対象の音楽ファイルが見つからないかファイル内容が壊れている場合に表示されます。 対象の音楽ファイルを確認してください。
Non-Supported	「ファイルの形式がサポート対象外です。」 対象の音楽ファイルの形式が対象外である場合に表示されます。 対象ファイルのエンコード形式を確認してください。
Battery Empty	「バッテリーが空です。」 バッテリーが殆ど空の状態に表示されます。 USBまたはACアダプターを接続し充電してください。
I/O Too Short	「INポイントとOUTポイントが近すぎます。」 I/OキーでLoop再生に入ろうとするときINポイントとOUTポイントが非常に近すぎると表示されます。 INポイントとOUTポイントを再度設定し直して見てください。
File Not Found PLAYLIST	「プレイリスト上のファイルが見つかりません。」 プレイリストに登録されているファイルが見つかりません。 MUSICフォルダに対象のファイルがあるか確認してください。
No PLAYLIST	「プレイリストがありません。」 プレイモードを「PLAYLIST」にした場合、プレイリストにファイルが一つも登録されていない場合に表示されます。 プレイリストへファイルを登録してください。詳しくは取扱説明書23ページ「プレイリストに登録する」をお読みください。
PLAYLIST FULL	「プレイリストが一杯です。」 プレイリストに99曲登録された状態で新たにファイルを登録しようとしたとき表示されます。 プレイリストから不要なファイルを削除してください。 詳しくは取扱説明書23ページ「プレイリストを編集する」をお読みください。
MBR Error Init CARD	「カードの初期化がが不正です。」 カードのフォーマットが異常、もしくは壊れています。 Are you Sure?表示の状態でENTERを押すことでカード全域がFATでフォーマットされます。 注意：FATフォーマットが実行されるとカード内のデータはすべて消去されます。
Format Error Format CARD	「カードのフォーマットが不正です。」 カードのFATフォーマットが異常、もしくは壊れています。 このメッセージはUSB接続したパソコンからFATでフォーマットした場合や新規購入のカードを挿入した場合でも表示されます。FATフォーマットは必ず製品本体で行う必要があります。 Are you Sure?表示の状態でENTERを押すことでカード全域がFATでフォーマットされます。 注意：FATフォーマットが実行されるとフラッシュメモリ内のデータはすべて 消去されます。
Not Found File Make Sys File	「システムファイルがありません。」 本機を使用するために必要なシステムファイルが無い場合に表示されます。 Are you Sure?表示の状態でENTERを押すことでシステムファイルが自動的に作られます。
Invalid SysFile Make Sys File	「システムファイルが不正です。」 本機を使用するために必要なシステムファイルが異常、もしくは壊れています。 Are you Sure?表示の状態でENTERを押すことで現在のファイルは破棄され、正常なシステムファイルで自動的に上書きされます。
Invalid Card Change Card	カードが何らかのエラーとなってしまう場合に表示されます。
Protected Card Change Card	MUSICフォルダなど所定のフォルダ、ファイルが無い状態でカードにプロテクトが掛かっていると起動時に表示します。

メッセージ	内容と対処方法
Write Timeout	カードへの書き込みが間に合いませんでした。 ファイルをPCへバックアップの上、フォーマットを実行してください。
Card Full	カードの残容量がありません。 不要なファイルを削除するかPCへ移動してください。
Max File Size	ファイルのサイズが指定のサイズを超えました。 あるいは録音時間が24時間を超えました。
File Full	フォルダとファイルの総数がすでに999個です。 不要なファイルを削除するかPCへ移動してください。
Card Error	カードによる何かしらのエラー 一旦電源を切り、カードを正常なものと差し替える必要があります。
Not Continued	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れなおしてください。 これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センターにご相談下さい。
File Error	
FX Rx Failed	
FX Busy	
Can't Save Data	
Player Error	
Device Error	
Writing Failed	
Sys Rom Err	
FX Init Err	
System Err 50	
System Error 1	
System Error 2	
System Error 3	
System Error 4	
System Error 5	
System Error 6	
System Error 7	
System Error 8	
System Error 9	

オーディオ入出力定格

・MIC2 IN入力

端子：	標準ホンジャック（モノ、不平衡）
入力インピーダンス：	10KΩ以上
基準入力レベル：	−50dBV
最大入力レベル：	−34dBV

・MIC1 IN入力

端子：	3.5mmミニホンジャック（ステレオ）（プラグインパワー対応）
入力インピーダンス：	30KΩ
GAIN HIGH時	
基準入力レベル：	−64dBV
最大入力レベル：	−48dBV
GAIN MID時	
基準入力レベル：	−48dBV
最大入力レベル：	−32dBV
GAIN LOW時	
基準入力レベル：	−32dBV
最大入力レベル：	−16dBV

・LINE IN入力

端子：	3.5mmミニホンジャック（ステレオ）
入力インピーダンス：	23KΩ
基準入力レベル：	−10dBV
最大入力レベル：	＋6dBV

・Ω/LINE OUT出力

端子：	3.5mmミニホンジャック（ステレオ）
●ライン接続時	
基準出力レベル：	−14dBV
最大出力レベル：	＋2dBV
●ヘッドホン接続時	
最大出力：	15mW + 15mW（32Ωヘッドホン接続時）

オーディオ性能

・周波数特性（LINE IN → Ω/LINE OUT）：	20Hz～2-kHz, ＋1/−3dB
・歪率（LINE IN → Ω/LINE OUT）：	0.03%以下
・S/N比（LINE IN → Ω/LINE OUT）：	90dB以上

一般

・対応オーディオファイル：

MP3ファイル：	32kbps～320kbps、サンプリング周波数44.1kHz／48kHz、VBR再生対応、Ver～2.4のID3TAGをサポート
WAVファイル：	サンプリング周波数44.1kHz／48kHz、ビット長：16／24ビット
記録媒体：	SDカード（64Mバイト～2Gバイト）およびSDHCカード（4Gバイト～32Gバイト）
ファイルシステム：	FAT16/32
付属（および別売）リチウムイオン電池：	3.7 V 1800mAh
バッテリー動作時間（内蔵マイク、MP3録音時）	約7時間（使用状況により変動することがあります。）
消費電力：	1 W（MP3再生時）
寸法：	70.0（幅）× 27.0（高さ）× 135.3（奥行） mm （突起部含まず）
質量：	208 g (リチウムイオン電池を含む)

別売アクセサリー

ACアダプター（PS-P520）

リチウムイオン電池（BP-L2）

アクセサリーキット(三脚、三脚取り付け用ホルダー、マイクスタンドアダプター)

接続するパソコンの条件

● Windowsマシン

Pentium 300MHz以上

128MB以上のMemory

USBポート (推奨：USB2.0、必須条件：500mA Bus Power対応)

● Macintoshマシン

Power PC、iMac、G3、G4　266MHz以上

64MB以上のMemory

USBポート (推奨：USB2.0、必須条件：500mA Bus Power対応)

● 推奨USBホストコントローラー

Intel製チップセット

● サポートOS

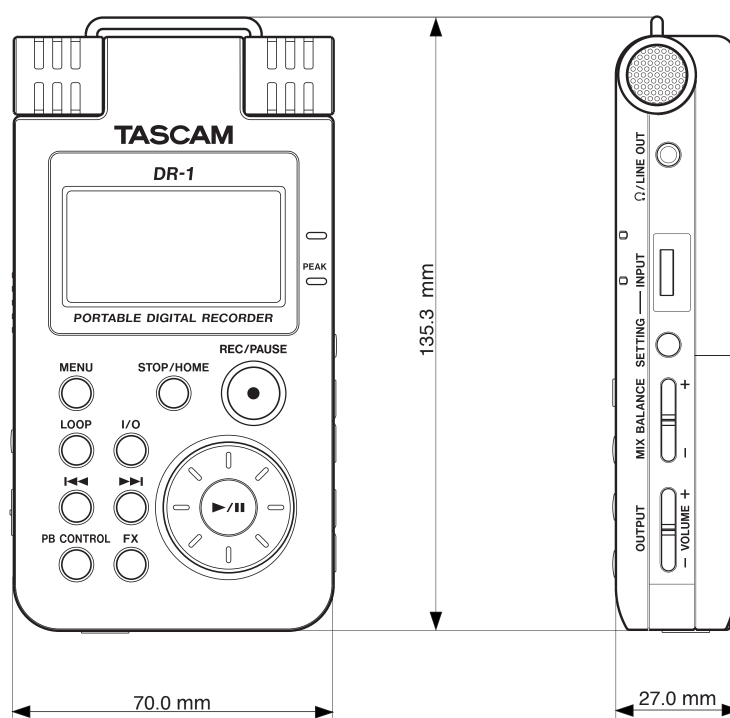
・ Windows Windows 2000 、XP 、Vista

・ Macintosh Mac OS 10.2以降



- SDロゴは登録商標です。
- WindowsおよびWindows 2000、XP、Vistaはマイクロソフト社の登録商標です。
- Macintosh、MacOS、MacOS Xはアップルコンピュータ社の登録商標です。
- その他このマニュアルに記載されている社名・商品名およびロゴマークは、一般に各社の商標または登録商標です。

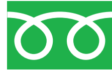
寸法図



この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00～12:00/13:00～17:00 です。

タスカム営業技術　〒206-8530　東京都多摩市落合 1-47



® **0120-152-854**

携帯電話・PHS・IP 電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、
通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:30～17:00 です。

ティアック修理センター　〒190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡 2-2-8



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社
〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
http://www.tascam.jp/